

『第48回奈良県中和病診連携の会』

実施報告

○日時：2024年1月20日（土）14:30～17:00

○配信場所：大和高田市立病院

放射線治療棟 大会議室

○参加者数：54名（院内10名）

内容

今年度2回目となる奈良県中和病診連携の会が開催されました。大和高田市医師会会長 酒本医院 酒本将稔先生の開会の辞で始まり、在宅医療を支える地域の先生方をお招きして「中和地域の在宅医療について考える」をテーマに、①在宅医療における栄養管理、②終末期における在宅医療の2点について座談会形式でディスカッションを行いました。座談会では中谷敏也副院長を座長として、開業医の先生方をはじめ10名の方にご参加いただきました。栄養管理は高齢者の生命予後に影響を及ぼします。栄養サポートが必要な方の9割は嚥下摂食障害があり、8割の方には低栄養状態にあると言われてはいますが、在宅において栄養士との連携はほとんどなく、食事の相談は訪問看護師にすることが多いと現状報告がありました。また歯科医師からは、食べる喜びや楽しみを持ち続けるためには、在宅での口腔ケアは重要であり、退院前カンファレンスに参加して継続管理に繋げていきたいと強い思いを話されました。現在、大和高田市には独居高齢者が約6600人おられ、独自の配食サービスがあります。在宅療養に戻られる際には、それぞれの地域で行われているサービスを知り、どのような連携ができるかを考えて退院調整を進めていきたいと思いました。開業医医師より、終末期における在宅医療では、看護サマリーはご本人の情報収集の際に大いに参考になっていることを話されました。また、薬剤師からは、ご本人と御家族の希望を知るためにも退院前カンファレンスに参加したいと話されていました。在宅医療に関わる先生方の強い思いを聞き、病院を含めた地域全体におけるチーム医療の実現に向けて有意義なディスカッションを行うことができました。

次に、明日香村国民健康保険診療所所長 武田以知郎先生より「地域の暮らしや物語に寄り添うケアードキュメンタリー映画『明日香に生きる』から」をテーマにご講演をいただきました。この『明日香に生きる』は、武田先生の日常の診療を撮影したドキュメンタリー映画です。これからは在宅医療の時代で治す医療から支える医療と話されました。今後の課題として「待ち受けるだけの医療から地域での暮らしに寄り添う医療介護」をあげられました。私たちも地域を支える多職種の方々と連携し、当院を利用される方々の地域の暮らしや物語に寄り添うケアができるように活動していきたいと思いました。この『明日香に生きる』は、3月にイオンモール橿原で上映予定だそうです。皆さま、是非ご覧下さい。



作成者 地域医療連携センター 長谷川真樹